



「香林堂」で知られる今井家住宅が国登録有形文化財に！

平成 26 年 12 月 19 日、吉田下町にある今井家住宅が国の登録有形文化財に登録されました。

今井家は戦後、家庭薬事業などを手がけ吉田地域の発展をけん引しました。その敷地内には、江戸時代から昭和にかけての建造物が残されており、特に、「香林堂」と壁面に記された赤レンガ造りの西洋館は往来の人々の目を惹き、吉田地域の街のシンボルとなっています。

このたび、吉田本町通りに面した主屋、西洋館に加え、格式のある新座敷や銀行を営業していた敷地内の店舗、あわせて 4 件の建造物が登録されました。

《登録物件概要》

名称	所在地	建築年代	種別		登録基準
今井家住宅主屋	燕市吉田下町 5324 他	江戸後期	建築物	住宅	1 国土の歴史的景観に寄与
今井家住宅西洋館		明治中期	建築物	住宅	3 再現することが容易でない
今井家住宅新座敷		明治中期	建築物	住宅	2 造形の規範となっている
旧今井銀行店舗		大正 9 年	建築物	住宅	1 国土の歴史的景観に寄与

【特徴等】

主 屋：敷地中央に位置し、豪壮な構えで通り沿いに雁木がんぎを通す。

西 洋 館：煉瓦造の外観のほか、シャンデリアや花卉形の中心飾など内装にも明治期らしい重厚華麗さを漂わす。外壁の「香林堂」は家庭薬会社名で、昭和 26 年（1951）に書かれた。

新 座 敷：西洋館の南に建つ客用座敷の座敷は大地主らしい格式を示す。

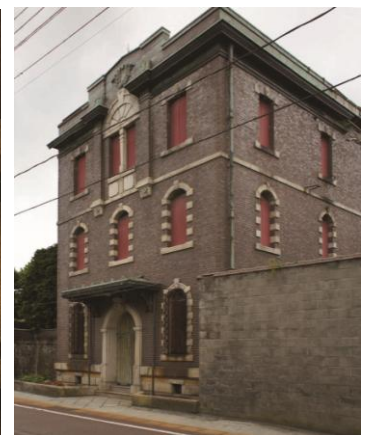
銀行店舗：大正 9 年（1920）～昭和 7 年（1932）まで営業した銀行の店舗で、昭和 26 年（1951）以降製薬工場となり、内部は改変された。



通りに面する今井家の構え（左から西洋館、主屋、旧今井銀行）



西洋館 2 階応接室



旧今井銀行店舗

（写真提供：今井家）

平成 26 年度 燕市の主な文化財保護事業

燕市教育委員会では、市内の文化財を守り後世に伝えていくため、さまざまな取り組みをしています。

●^{たからさき}宝崎遺跡発掘調査（5月～9月）

県営経営体育成基盤整備事業（潟4期地区）に伴い、用排水路工事箇所では遺跡の現状保存が図れないことから、本発掘調査を実施しました。

宝崎遺跡は大河津分水左岸の丘陵裾に在り、旧寺泊町との境界付近に近世まで広がっていた^{えんじょうじがた}円上寺潟の縁辺に位置します。付近では、土器や石器が拾われる場所として複数の遺跡が古くから知られていますが、宝崎遺跡は貴重な奈良時代の瓦が拾われることから、重要な遺跡の一つと考えられています。

今回の調査では、現在では地下に埋もれた谷状の旧地形が確認され、ここから縄文時代の土器や石器が大量に出土しました。谷は、生活の中で不用になった道具やまじないで使用したものなどを廃棄する場所として使用されていたようです。出土遺物から、縄文時代中期初め（約5,500年前）～晩期（約2,500年前）まで営まれた集落遺跡と分かりました。また、過去に採集された遺物には平安時代や中世の土器もあり、断続的に長期間にわたって利用された遺跡です。

出土品等の調査はこれから実施するため現段階で詳しい内容は不明ですが、丘陵部に集落の中心（居住域）を構え、眼下に広がる水辺を利用した生活が目に見えます。縄文人にとって、山と水辺の豊かな自然の恩恵を得られる絶好の環境だったのでしょう。



遺跡全景（北東から）



埋没谷（南東から）



縄文時代中期初め頃の土器



縄文時代後期初め頃の土器



土偶（腹部）

●子ども写生会—水道の塔を描こう—（8月）

国の登録有形文化財である水道の塔に親んでもらうため、水道の塔を題材にした子ども写生会を8月2日（土）に開催しました。

写生会は平成24年から毎年夏休みに開催していますが、今年は定員をはるかに超える90人の子どもたちが参加しました。梅雨明けの真夏日となったこの日、子どもたちは、強い日差しにも負けず思い思いに水道の塔を描いていました。休憩をはさんで水道の塔の内部を見学し、水道の歴史にも触れました。

そして、11月には中央公民館ロビーで参加者の作品展を開催し、のびのびとした素晴らしい作品に、公民館を訪れる多くの人を楽しみました。



写生会の様子—がんばって絵を描きました！



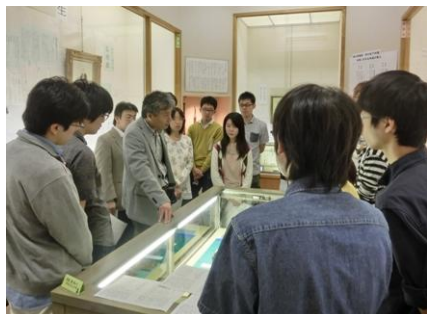
作品展

●長善館史料館所蔵資料調査（10月）

長善館は、天保4年（1833）～明治45年（1912）まで粟生津にあった私塾で、80年間に千人を超える塾生を教育しました。長善館は「越後の松下村塾」と言われるほど様々な人材を輩出した私塾です。

長善館史料館は、創設者の鈴木文臺^{ぶんたい}をはじめとした歴代の教師、塾の歴史や意義などを関係資料により展示・紹介しています。

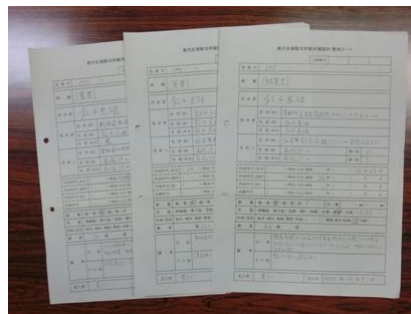
燕市では、平成25年度から筑波大学の中野目教授ゼミと連携して史料館に残る長善館資料を整理・調査しています。現在は、貴重な資料を大切に保管し、研究へ活かせるよう資料の目録づくりに取り組んでおり、10月1日（水）～3日（金）の3日間、教授・大学生ら22人で作業を行いました。参加大学生たちは、作業の合間に史料館で鈴木虎雄博士や長善館のことを学習しました。



学生の長善館史料館見学



目録作成作業



作成した資料目録カード

【長善館史料館】

開館時間 9:00～16:30（月曜休館） 燕市粟生津 97番地 電話：0256（93）5400

●燕市指定文化財（考古資料）「有窓土器」^{ゆうそうどき}

渡部地内に所在する^{まくしま}幕島遺跡から出土した縄文土器です。

幕島遺跡は渡部地内に樹枝状に延びる丘陵の南端に位置し、旧円上寺湯を挟んで北には今年度発掘調査した宝崎遺跡があります。宝崎遺跡同様に、土器や石器が拾われるため古くから知られています。

本資料は、昭和34年（1959）に幕島地区で防火水槽を設置する工事の際に多数の土器とともに出土したもので、高さ9cm、径11cmと小ぶりの土器です。底部が欠けていますが台が付く形と考えられます。四方に窓のような穴があいていることから「有窓土器」と名づけられました。縄文時代後期（約4,000年前）の香炉形土器で、祭祀などに使用されたと考えられます。

遺跡は、水田の排水路工事に伴って昭和35年（1960）に発掘調査が行われました。調査は2×4mほどのトレンチ調査でしたが、たくさんの土器や石器などの生活用具の他、^{せきぼう}石棒や^{どくう}土偶といったまじないの道具、さらにニホンジカやイノシシなどの動物骨が出土するなど、多くの成果がありました。

この調査は、燕市で文化財保護を目的に行政が行った最初の発掘調査であり、地域の文化財保護にとっても重要な「はじめの一歩」だったのです。



燕市指定文化財 有窓土器



発掘調査の様子

ご指導に感謝して

燕市文化財調査審議会委員長として、長年燕市の文化財保護を支えてこられた石黒克裕さんが平成27年3月11日、永眠されました。

石黒さんは、燕市文化財調査審議会委員や新潟県文化財保護指導委員を歴任し、『燕市史』や『燕ジュニア検定問題集』など地域史に関する多くの刊行物の執筆・編集を手がけるなど、地域の文化財保護や郷土史研究に大きく貢献されました。また、地元の横町萬灯保存会代表も努め伝統文化の継承にもご尽力されてきました。

平成26年には、これらの功績を称えて平成26年度の文部科学大臣による地域文化功労者表彰を受けられました。

これまでのご指導を今後の燕市の文化財保護の道標として、市では今後も文化財保護に取り組んでまいります。ご指導に深く感謝するとともに、ご冥福をお祈りいたします。

